

子ども秋祭りをフラッシュアップ！！

稲越子ども会育成会 会長 服部英信

厳島神社の境内をお借りして前夜祭（10月11日）本祭り（12日）が開催されました。前夜祭（宵宮）は、これまでの暑さが嘘のような冷たい霧雨に覆われて忍び寄る秋の気配を感じました。夜店で賑わう宵宮には多くの地域の後援者が訪れて温かい励ましの言葉を頂きました。

お祓いを受けて鎮座する「子ども神輿」は、うなずきながら明日の渡御に想いを馳せているみたいでした。

本祭り当日は小雨も上がり絶好のお祭り日和となり、イナセな半纏（はんてん）の老若男女が厳島神社前に集合すると、子ども神輿を取り囲むように宮出しの開祭式が行われました。主催者と厳島神社総代の挨拶があり、お神酒が配られ威勢のいい喜入三本締め、子ども神輿は稲越町内に繰り出しました。

風過ぎになると、今年の秋祭りは何か違うと感じられました。神輿の担ぎ手の掛け声が熱気を帯びて、その場の雰囲気は少しずつ変わりました。それは子ども達の保護者が積極的にお祭りを主導しているように見えたことでした。

お祭りは地域の人々に大切に受け継がれるもので、地域社会との繋がりを深める絶好の機会となります。コロナ禍を境に後継者の先細りが懸念されていましたが、若いエネルギーを膨らませて世代交代が出来たなら、新しい子ども秋お祭りを生み出すきっかけになると思われます。

人の心が浮き立つような子供の頃の風景は、大人になっても絶対に消える事はないと信じています。



第488号
稲越自治会

広報部
部長：田中智



子供達に引かれて宮出しする神輿



オアゾ前で揉まれる神輿

☆若さ溢れる☆ 国分地区ふれあいの集い

10月19日（日）国分小学校に於いて、国分地区社協「ふれあいの集い」が開催されました。鷲沼福祉部長と桑原社協会長は、ご挨拶の中で国分地区の福祉に係わる熱意と取り組みに謝意を述べられました。

社協の山口さんの講和「今から始めるエンディングノート」が始まると、聞き入る顔も幾分曇らせましたが、大和田さんによる健康体操ですっかり緊張がほぐれて会場のざわめきが戻りました。

演芸の部門では、「楽しもう！パフォーマンズ」と銘打って登場した「レンコンバンド」の演奏に会場は拍手喝采で昭和の名曲が蘇りました。

次に花園千草会の華麗な「日舞」と対照的な梅介会の「車引」と「かっぱれ」そしてストリートダンス・ビジュの若いパワフルなダンスは、高齢者に最高のプレゼントになりました。お帰りに軽食と素敵なお花のお土産、本当に楽しい一時を過ごしました。